

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2372100731		
法人名	有限会社マインド		
事業所名	グループホーム葵 (1)		
所在地	岡崎市丸山町字仲畑8番地1		
自己評価作成日	平成28年11月2日	評価結果市町村受理日	平成29年2月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2372100731-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2372100731-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人あい福祉アセスメント		
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえでビル 2階		
訪問調査日	平成28年11月17日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

いつまでも元気に生活して頂きたい。少しの残存機能でも生き生きとした生活が出来る様お手伝いをさせていただきます
--

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

近くに乙川が流れ、地域には保育園や中学校、公民館、町工場が点在している中に事業所が位置している。宅老所からの歴史を有し、「心安らぐもうひとつの家」を理念に、いつまでも元気で生きいきとした生活ができるようにと職員は話し合いを重ね、ケアにつなげるように心がけている。地域や町内会に積極的に働きかけ、地域の防災訓練に事業所の場を提供し、消防団の協力を得てAEDの使い方を地域の方と共に受講したり、事業所の夏祭りやクリスマス会に子ども会を招いたりして、地域の方々が来やすい事業所づくりに心がけている。また、地域の祭りの獅子舞が立ち寄り、入居者も一緒に楽しみ祭りを通して昔の郷愁を懐かしんでいる。入居者の好みや季節の素材を活かした手作りの食事の提供や昼間玄関を開錠し職員の見守りの中で自由に散歩に出かけられるような支援をしている。居間では、101歳を迎えた入居者と皆と一緒にテレビを見たり、会話をしたりして楽しく過ごしている。職員は、一人ひとりの笑顔と想い、その人なりの個性を大切に支えていけるように、気持ちを一つにしてケアに努めている。
--

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(心安らぐもうひとつの家) 残された残存機能を生かして出来るだけ体を動かして生活をして頂いています	理念は居間に掲示され、いつも見て確認できるようにしている。月1度の勉強会や朝の申し送り、日々のケアの中で理念に基づき職員に振り返りの機会を持ち、共有してケアに繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩をしていると地域の方達から話しかけたり野菜、花など頂くことがあります。	町内会に加入し地域の情報を得ている。地域の防災訓練に場を提供したり、事業所の夏祭りやクリスマス会に子ども会を招くなど地域の人々が来やすい環境づくりに心がけている。また、地域の祭りの獅子舞が立ち寄り、入居者も一緒に楽しんでいる。中学生や大学生などの職場体験の受け入れもしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	気軽に立ち寄って頂ける様開放しています		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	丸山町内でAEDを購入された為10月にグループホームで講習会を行います	運営推進会議は、家族や町内会の総代、介護相談員、地域包括支援センター職員の参加を得て、2か月に1度年6回、ユニットの居間で開催している。事業所の課題をはじめ、地域で開催する行事の連携やAEDの使い方など密な話し合いがされている。意見や要望は、職員で検討し運営に反映させている。	家族に運営推進会議の案内を出し、参加を呼び掛けているが難しい状況にある。参加できなかった家族に、事業所で日々更新しているブログ等を活用して会議の内容を送信したり、文書を郵送するなどをして周知していくことを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	今年は利用者様のターミナルが重なる事が多く手続きが必要なのか相談しています	更新手続き代行時や、制度についての質問や看取り事例などの相談で市の担当者と密に連絡を取り、指導や助言を得ている。また、機会あるごとにサービスの内容を伝え、協力関係を深めるようにしている。市主催の研修に参加し、職員に伝達している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会で身体拘束について皆で話し合っています。昼間は窓、玄関、非常口は鍵を閉めていない AM9:00～pm18:00	身体拘束についての勉強会をして意識を高め、スピーチロックに配慮したり、束縛感のない環境作りに努めている。申し送りや日々のケアの中で気になることは、その都度話し合うようにしている。玄関は昼間開錠しているので、散歩など職員の見守りの中で自由に行けるような支援をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	普段行っているケアを見直し気になる事があればすぐ対処し話し合いを行います		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在1名の方が利用されています		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族からの質問を聞き入れ十分な説明を行う様になっています		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護相談員の方が毎月訪問され利用者様の要望を聞き入れた時は伝えて頂いています	入居者からは日常のケアの中で把握し、その都度検討をしている。家族からは面会時に、意見や提案を聞くようにして「面会ノート」に記録し、職員間で共有して運営に反映させている。また、ブログや個人ファイルを活用し、入居者の情報を提供し、家族から安心感が得られている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・常に職員の意見を聞き入れる体制を心がけています ・年に2回上司と面談する機会を持っています	日常の業務の中や申し送り時に、職員の提案や要望を聞き、話し合いをして運営に反映させている。管理者と年に2回面談をし、出された意見には真摯に向き合い改善を図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回人事考課を行い向上心を持って働いてもらえる様務めています		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフ1人ひとりスキルアップ計画を立て目標を持って仕事をしてもらっています		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム小部会に参加し同業者との交流を通してサービスの質の向上、人材育成に努めています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様のこれからの生活状況を把握し、本人にとってその人らしい暮らしを支えられる関係作りに努めています		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族からの要望がある場合面会時に相談出来る様声かけを行っています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必ず入所前に現在利用されているサービスに訪問し様子を聞き入れ家族に見学に来て頂き、話を伺い納得して頂き入居して頂きます		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者のペースで生活して頂き出来ることは見守りながら一緒に行うようにしています		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族や知人の方達の訪問が気軽に出来る様に訪問時は気分良く過ごして頂ける様心がけています (挨拶、笑顔で対応)		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の方に余り負担にならない程度に外出、外出出来る様に働きかけています	アセスメントシートで生活歴や馴染みの人、場所を把握し、ケアに活かせる様に努めている。入居して馴染みになった近隣の薬局に買い物に行く支援をしている。友人の訪問があり、旧交を深めている。馴染みの場所への外出や外食については家族に依頼している。	外食や外出の負担を家族にゆだねる部分が多いので、入居者や家族の意見を取り入れながら、事業所でする個別の支援を立て、今まで培った経験や馴染みの人、場所との関係が途切れないような支援に努めていくことが望まれる。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日ほとんどの利用者様は気の合う方とフロアで会話をされています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在は行っていません		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様一人ひとりと会話し日々の行動表情を見極め何をしたいかして欲しいか少しでも理解出来るように努めています	入居者の希望や思いに沿うよう職員は日々の関わりや会話、表情などからくみ取ったり、ケアの中から感じ取るように努力をしている。また、公平なケアを実施するために担当制ではなく、ユニット全員を職員でケアをし、希望や意向を共有してケアに繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活環境など本人や家族に伺い出来る限り利用者本位の生活をして頂ける様に努めています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	スタッフの言葉かけ、行動はゆっくりする様に心がけ利用者様のペースに合わせる様にしています		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様一人ひとりの生活状況を観察し要望を把握し介護計画を作成し支援内容を共有出来る様にしています	入居者や家族からの意向や意見を聞き、協力医の意見も取り入れながら介護計画を作成している。モニタリングと見直しは3カ月ごとに行っているが、状態の変化によって随時の見直しも行き、家族に内容を説明し同意を得ている。日常生活動作の評価を、職員全員で共通しケアをするようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様一人ひとりの経過表、水分摂取量、健康チェック等を記録し問題点を会議で話し合いを行っています		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様の生活状況を家族に知って頂ける様に毎日ブログを行っています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に総代、民生委員子供会の役員さんに出席して頂いており夏祭り等の行事に町内の方にもボランティア参加して頂いています		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様の心身の変化や異常が起きた場合気軽に相談できる医療機関を確保しています。 (あおい在宅クリニック、田口先生) 往診月1回有	入居時にかかりつけ医、協力医の希望を聞いているが、協力医の受診に変更している。神経内科の協力医による月1回の往診がある。協力医と明確な連携が確保され、随時受診や24時間体制での往診が可能であり適切な医療を受けられるような支援をしている。専門医療については家族に依頼している。受診に関わる情報や薬の取り扱いについては、職員間で確認しながらケアにつなげている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の変化が起きた場合協力医との確実な連携を行なっています		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	・入院した場合、早期退院の為話し合いや協力を医療機関と行ないます ・一週間に一度見舞いに行き対応しています		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者様が重度化された場合でもグループホームで行なえる支援を出来る限り行ないます	重度化や終末期、看取りについては入居時に意向や希望を確認している。状況が変化した場合はその都度本人や家族に希望を再確認し、医師や訪問看護師、その他関係機関と話し合いながら、入居者にとって最善の援助ができるように日頃から研鑽を重ねている。看取りの経験もあり、対応は職員のメンタルケアも含めて勉強会で研修をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	夜間時、緊急対応についてのマニュアルを作成し周知徹底図っています		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・近所、町内の災害支援の方達に協力して頂ける事になっています	町内会と協力し消防団の協力を得ながら、消防訓練とAEDの講習を事業所で行い、地域の人も多数参加している。火災や地震、夜間を想定した訓練を行っている。水、食品等の備蓄品は3日分程用意している。非常の際には、近所や町内の災害支援の方達との協力体制は築かれている。	有事の際は町内の総代とも連絡を取り合っているが、事業所の立地状況から、台風や豪雨など、未曾有の水害を想定した訓練を実施し、安全性の確保を検討していくことを願いたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の言葉かけは常に穏やかに接する様に周知しています	職員は、入居者それぞれの個性や生活スタイルを大事にし、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応に努めている。また、入居者の人格や相性、身体状況や症状、性差などに留意して、座る場所や場の雰囲気などに気をつけながら、お互いに気持ち良く過ごせるようにこころがけている。呼称は、「さん」付けで呼んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思表示が出来る方、出来ない方関係無く出来るだけ要望に応じています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・一人ひとりの気持ちを尊重し出来るだけ個別ある支援をしています ・自室で休んだり散歩等一人ひとりの思いに配慮しながら対応しています		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	年に4回理容の方にグループホームまで着て頂きカットを行ないます		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・庭の畑で収穫した野菜を食材で利用し利用者様と職員で会話をしながら食事をしています ・当日のメニューをボードに書いています	献立は、入居者の希望や季節に合ったものを取り入れている。菜園で収穫した野菜を食材にしたり、週3回職員が買い出しをして調達している。手作りのおやつがあり、食べる楽しみが持てるような工夫をしている。保有能力に合わせて、片付けや吹きあげなど職員と一緒にしている。職員も一緒に食卓を囲み食事をしている。外食は家族と一緒に出かけている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・一人ひとりの食事量を主・副に分け10割で記入をしています ・水分摂取量も表に記入しています		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・洗面所に誘導し口腔ケアをして頂いています ・週に一度、義歯洗浄、コップを消毒しています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄時間を表に記入し排泄時間を把握しなるべく失敗が減少する様になっています	座位での排泄支援に心がけている。排泄チェック表を参考に一人ひとりに寄り添い、声かけやタイミングなどを工夫し、適切な支援をしている。夜間も、尿意を感じ自分でトイレに行くことを大切に、丁寧な見守りの支援を行っている。入居者の状態を見て、布パンツに戻す工夫もしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食材の工夫や運動をして頂き自然な排便が出来る様に働きかけています。2日排便が無い方は下剤の服用して頂いています		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	現在一日おきに入浴をして頂いています。入浴を嫌がる利用者様には無理にせず時間をずらして入浴を行なっています	週に3回、10時から昼食前に入浴時間としている。肌に優しい石鹸や入浴剤を使用したり、他のユニットの風呂に入るなど入浴が楽しめるような支援を行っている。入浴を拒む方には、声かけを工夫したりタイミングを見計らい、気分転換を図って気持ちよく入浴できるように支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	天気の良い日には庭に出たり、散歩に出掛けたり身体を動かして頂き生活リズムを整える様に努めています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋の用紙を一人ひとりの経過表にはさみスタッフ全員が把握出来る様にしています		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中で役割分担を決め仕事をしたと言う充実感を味わって頂ける様に努めています (掃除、ベットメイキング、洗濯たたみなど)		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には散歩などの外出機会を設け家族にも協力して頂き外出、外食などの時間を設けて頂いています	庭の草取りや野菜の水やり、収穫など入居者の希望に沿ってなるべく外に出る機会を大事にするようにしている。日中は玄関が開いているので、職員の見守りの中で散歩に出かけている。年に1度、中部総合公園に花見に出かけている。家族の協力を得て、普段行けない場所にも出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	可能な限り一緒に買い物に出かけます		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の要望があればその都度対応しています		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアの壁には季節に合った飾り付けや誕生日の写真利用者様の作品を展示しています	それぞれのユニットは、食堂と居間がワンフロアの共有スペースで、入居者の動きや気配がよく見渡せる。みんなでレクリエーションをして過ごしたり、テレビを見たりしてのんびり過ごしている。居間には、季節に応じた手作りの作品や誕生日の写真が飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビの前にはソファーが設置してあり気軽に座ってくつろげる様に工夫してあります		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時本人の使い慣れた物を持参して頂いています (タンス、家族の写真、ぬいぐるみ等)	筆筒や衣装ケースなど、自宅で使用していた物を持ち込んで安心できるスペースや環境作りをしている。また、本人や家族が希望する小物や写真を飾って居心地良く過ごせるように工夫をしている。掃除ができる方は自分できれいにし、愛着のある自分の部屋作りをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロアに手摺を設置してありトイレの入り口に目印が貼ってあります		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2372100731		
法人名	有限会社マインド		
事業所名	グループホーム葵 (2)		
所在地	岡崎市丸山町字仲畑8番地1		
自己評価作成日	平成28年11月2日	評価結果市町村受理日	平成29年2月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail/2016_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2372100731-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail/2016_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2372100731-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あい福祉アセスメント		
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえてビル 2階		
訪問調査日	平成28年11月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

いつまでも元気に生活して頂きたい。少しの残存機能でも生き生きとした生活が出来る様お手伝いをさ

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

近くに乙川が流れ、地域には保育園や中学校、公民館、町工場が点在している中に事業所が位置している。宅老所からの歴史を有し、「心安らぐもうひとつの家」を理念に、いつまでも元気で生きいきとした生活ができるようにと職員は話し合いを重ね、ケアにつなげるように心がけている。地域や町内会に積極的に働きかけ、地域の防災訓練に事業所の場を提供し、消防団の協力を得てAEDの使い方を地域の方と共に受講したり、事業所の夏祭りやクリスマス会に子ども会を招いたりして、地域の方々が来やすい事業所づくりに心がけている。また、地域の祭りの獅子舞が立ち寄り、入居者も一緒に楽しみ祭りを通して昔の郷愁を懐かしんでいる。入居者の好みや季節の素材を活かした手作りの食事の提供や昼間玄関を開錠し職員の見守りの中で自由に散歩に出かけられるような支援をしている。居間では、101歳を迎えた入居者と皆と一緒にテレビを見たり、会話をしたりして楽しく過ごしている。職員は、一人ひとりの笑顔と想い、その人なりの個性を大切に支えていけるように、気持ちを一つにしてケアに努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(心安らぐもうひとつの家) 残された残存機能を生かして出来るだけ体を動かして生活をして頂いています		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩をしていると地域の方達から話しかけたり野菜、花など頂くことがあります。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方達が気軽に立ち寄って頂ける様開放しています		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	丸山町内でAEDを購入された為10月にグループホームで講習会を行います		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	今年は利用者様のターミナルが重なる事が多く手続きが必要なのか相談しています		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	昼間は窓、玄関、非常口は鍵を閉めていない AM9:00~pm18:00		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	普段行っているケアを見直し気になる事があればすぐ対処し話し合いを行います		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在必要な方は2ユニットにはいない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には家族からの心配事を聞き入れ十分な説明を行い納得をして頂いています		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護相談員の方が毎月訪問され利用者様の要望を聞き入れた時は伝えて頂いています		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・常に職員の意見を聞き入れる体制を心がけています ・年に2回上司と面談する機会を持っています		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回人事考課を行い向上心を持って働いてもらえる様務めています		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフ1人ひとりスキルアップ計画を立て目標を持って仕事をしてもらっています		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2ヶ月に一度グループホーム小部会に参加し同業者との交流を通してサービスの質の向上、人材育成に努めています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様のこれからの生活状況を把握し、本人にとってその人らしい生活を支えられる関係作りに努めています		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が気がかりな事や要望などある場合スタッフに伝えたり相談できる様面会時に声掛けを行っています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必ず入所前に現在利用されているサービスに訪問し様子を聞き入れたり家族に見学に来て頂き、話を伺い納得して入居して頂いてます		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様が出来るような事は見守りをし一緒に行う様にしています		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族や知人の方達の訪問が気軽に出来る様に訪問時は気分良く過ごして頂ける様心がけています (挨拶、笑顔で対応)		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の方に余り負担にならない程度に外泊、外出、外食が出来る様に働きかけています		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ほとんどの利用者様は気の合う方とフロアで会話をされています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在は行っていません		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様一人ひとりと会話し日々の行動表情を見極め何をしたいかして欲しいか理解出来るように努めています		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活環境など本人、家族に伺い出来る限り利用者本位の生活をして頂ける様に努めています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	スタッフの言葉かけ、行動はゆっくりする様に心がけ利用者様のペースに合わせる様にしています 午後はおお昼寝をしています		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様一人ひとりの生活状況を観察し要望を把握し介護計画を作成し支援内容を共有出来る様にしています		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様一人ひとりの経過表、水分摂取量、健康チェック等を記録し問題点を会議で話し合いを行っています		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様の生活状況を家族に知って頂ける様に毎日ブログを行っています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に総代、民生委員子供会の役員さんに出席して頂いており行事に町内の方にもボランティア参加して頂いています		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様に異常が起きた場合気軽に相談できる医療機関を確保しています。 (あおい在宅クリニック、田口先生) 往診月1回有		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の変化が起きた場合協力医との確実な連携を行なっています		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・入院した場合、早期退院の為話し合いを協力を医療機関と行ないます ・一週間に一度見舞い情報交換をしています		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者様が重度化された場合でもグループホームで行なえる支援を出来る限り行ないます		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	夜間時、緊急対応についてのマニュアルを作成し周知徹底図っています		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・近所、町内の災害支援の方達に協力して頂ける事になっています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の言葉かけは常に穏やかに接する様に周知しています		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思表示が出来る方、出来ない方関係無く出来るだけ平等に要望に応じています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・一人ひとりの気持ちを尊重し出来るだけ個別ある支援をしています ・自室で衣類の整理整頓をしたり休んだり一人ひとりの思いに気を配るながら対応しています		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	年に4回理容の方にグループホームまで着て頂きカットを行ないます		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・庭の畑で収穫した野菜を食材で利用し利用者様とスタッフと会話をしながら食事をしています ・当日のメニューをボードに書いています		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・一人ひとりの食事量を主・副に分け10割で記入をしています ・水分摂取量も表に記入しています		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・洗面所に誘導し口腔ケアをして頂いています ・週に一度、義歯洗浄、コップを消毒しています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄時間を表に記入し排泄時間を把握しなるべく失敗が減少する様になっています		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食材の工夫や運動をして頂き自然な排便が出来る様に働きかけていますが2日排便が無い方は下剤の服用して頂いています		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	現在一日おきに入浴をして頂いています。入浴を嫌がる利用者様には無理に介助せず時間をずらしたり曜日を変更して入浴を行っています		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	天気の良い日には庭に出たり、散歩に出掛けたり身体を動かして頂き生活リズムを整える様に努めています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋の用紙を一人ひとりの経過表にはさみスタッフが把握出来る様にしています		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中で役割分担を決め仕事をしたと言う充実感を味わって頂ける様に努めています (掃除、ベットメイキング、洗濯たたみなど)		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には散歩などの外出機会を設け家族方にも外出、外食などの時間を設けて頂いています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人希望があれば家族から渡されたお金を所持し買物に出かけています		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の要望があればその都度対応しています		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアの壁には季節に合った飾りや誕生日の写真、利用者様の作品を展示しています		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビの前にはソファーが設置してあり気軽に座ってくつろげる様に工夫してあります		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時本人の使い慣れた物を持参して頂いています (タンス、テレビ等)		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロアに手摺を設置してありトイレの入りに目印が貼ってあります		